

内堀福島県知事

ホルゼツキー州経済次官

テーベン州環境省局長

渡辺 JETRO デュッセルドルフ所長

御列席の皆様

(冒頭)

このたび、ふくしま成長産業分野グローバル展開事業トップセミナー「福島
の挑戦」が開催されますことを日本国総領事として心から祝福申し上げます。
開催準備に当たられたJETROデュッセルドルフ、福島県、NRW州等すべ
ての関係者に敬意を表します。また、本日は内堀県知事が当地に来訪いただき、
レンメル州環境大臣との間で再生可能エネルギー分野での福島県・NRW州間
協力を延長・拡大する覚書に署名されました。心からお祝い申し上げるととも
に、今後両者間の協力が更に発展することを希望します。

(夢と現実)

さて、今日からあと55日で3月11日です。「あの日」からもう6年になり
ます。2011年3月11日に起きたことを私たちは「東日本大震災」と呼ん
でいますが、世界の中でドイツだけは今でも「フクシマ」だけが語られること
は大変悲しいことです。メディアによるラベリングが、私たちに悲しみを与え
たことは事実です。それを克服することは簡単ではありませんが、福島の皆さ
んがそれを乗り越えて努力されていることに敬意を表します。

しかし、より重要なことは、福島は6年前で立ち止まっていないことです。
6年の間に世の中は進化しているわけですが、福島の進化のペースは普通の倍
速です。なぜなら、原発事故を含め、大震災が残した「マイナス」の負荷を、
ゼロないしプラスにすること（Restoration）と、さらに新しい未来を作
る（Zukunftsschaffung）という2つのプロジェクトを、同時並行で行っている
からです。これについては内堀知事からお話があると思います。

(NRWとの協力)

福島の復興はまた、多くの人の支援によって支えられています。特に、NR
W州は、福島県が困難の直面しているときに、進んで協力の手を差し伸べてく

れました。NRW州との協力は、福島を励まし、双方向の具体的な果実をもたらしています。政策レベルで結ばれた2つの分野での協力に関する覚書に加え、福島とNRWとの間に、メッセにおける出展等を通じ、企業間の協力が育まれています。あとで具体的な協力について報告があると思いますが、私も先週、ホルゼツキー次官とボーフムの AirMed という企業に招かれて福島とのビジネスの展開について説明を受けました。福島とNRWの技術提携により、世界のマーケットでの展開、ドイツの先端技術の日本市場への進出、福島の最先端プロダクトの欧州への進出という、さまざまなチャンスがうまれています。このように、具体的な Win-Win の関係が築かれていることに非常に感銘を受けました。こうした協力を可能にした、NRW州政府、企業及び市民の皆様の支援と努力に心から感謝申し上げたいと思います。

(市民間の交流)

私としては、これまで築かれた協力の上に、より多くの市民が参加する形で持続的な双方向の交流が生まれることを希望しています。幸いにも、エッセン市と、福島県の郡山市が相互に交流を深めたいとの意向を持ってくださることを歓迎します。(新地町とザーベックとの間にもポテンシャルがあると昨日伺いました)。こうした都市間の友好関係が実現すれば大変有益だと思っており、大いに期待しています。在デュッセルドルフ総領事として、微力ながらこうした交流の推進に貢献できれば幸いです。

(セミナー成功祈願と結語)

最後に、活発な議論と意見交換、さらにはネットワーキングを通じ、皆様すべてにとり素晴らしいセミナーとなること、またこれを機に福島とNRW州との交流が一層深まりますことを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。